特集

コロナ禍を乗りきれ！

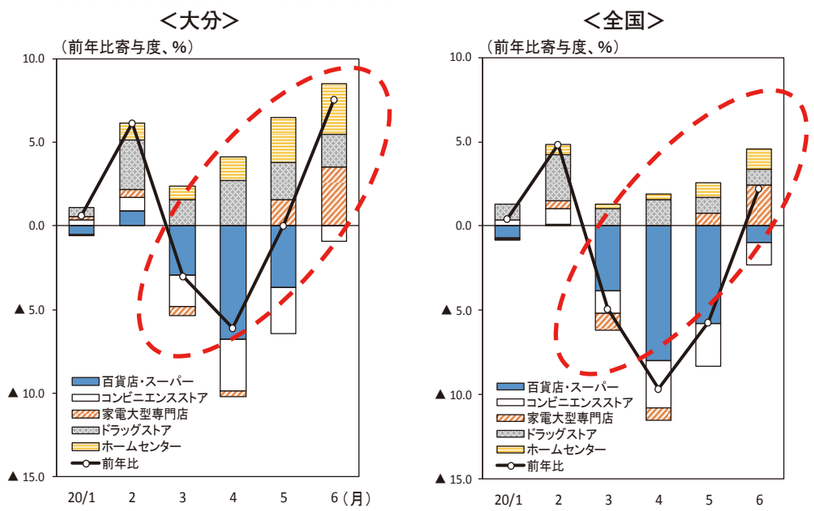
── 再興を期す経営者たち ──

新型コロナウイルスの猛威により、世界中の経済が混乱を起こしています。非常事態宣言時には人の移動や外出が大きく制限され、その結果、業績の悪化が打撃となり、政府の資金繰り支援策等もむなしく、休業や廃業を強いられる企業も現れました。

それでも10月1日に日本銀行大分支店が発表した「9月企業短期経済観測調査（短観）」によると、県内企業の景況感を示す業況判断指数（DI）は改善の方向を示し、宿泊・飲食サービスなど非製造業を中心に持ち直しはじめたようです。さらに別の発表資料によると、感染拡大後も大分県の商業動態統計（前年比）は全国ほどの落ち込みを見せておらず、直近となる6月も全国を上回るプラス水準となっていることがわかりました（右記グラフ参照）。その要因は、県民の感染予防への意識の高さと、感染者数が他県に比べて低いことが影響していると日本銀行大分支店は指摘しています。これからGoToキャンペーン等の本格始動で、景気回復の動きが加速していくことが期待されます。

コロナ禍で再興の好機を探っている企業を取材してきました。

■ 商業動態統計前年比と業態別寄与度



※日本銀行大分支店2020年9月11日発表『新型コロナウイルスの感染拡大を受けた大分県民の消費行動の変化』より

宝物産株式会社 【荘園支部会員企業】

ヒット商品『謎のとり天せんべい』も“おうちごはん”“おうちおやつ”として別の楽しみ方を提案しています

“おうちごはん”“自分にお土産”といった新しい切り口で商品をPR展開

こころひとつに難局を乗り越える

ユニークなTV-CMと不思議なネーミングで、いまや大分を代表する土産品の仲間入りを果たした『謎のとり天せんべい』。商品の企画販売を手がけた宝物産株式会社は、大分県内に限らず九州一円から四国、山口にまで販路を有する土産品の製造卸売会社です。

『謎のとり天せんべい』の商品販売に携わった目代安伸営業部長は、その苦労談を次のように話します。

「実は商品販売に至るまで、紆余曲折がありました。カボスのような果実を原料にするのではなく、とり天という惣菜そのものを菓子にしてヒットした成功例は少なく、二の足を踏んでいたのです。しかし商品を発案した社員、苦労の末に完成までこぎつけた製造現場の社員、販促に奔走した営業社員、すべての社員がこの商品に向き合ったことが、奇跡を導いたのだと思います。おかげで当社商品ラインナップの大きな柱にまで成長しており、毎年夏には限定味の商品を企画するなど、全社員が楽しく商品づくりに取り組んでいます」

全社一体となった前向きなベクトルが、ヒット商品を生み出したのかもしれません。コロナ禍で厳しい局面に立たされている業界にありながら、同社からは、この難局を乗りきろうというエネルギーが感じられます。

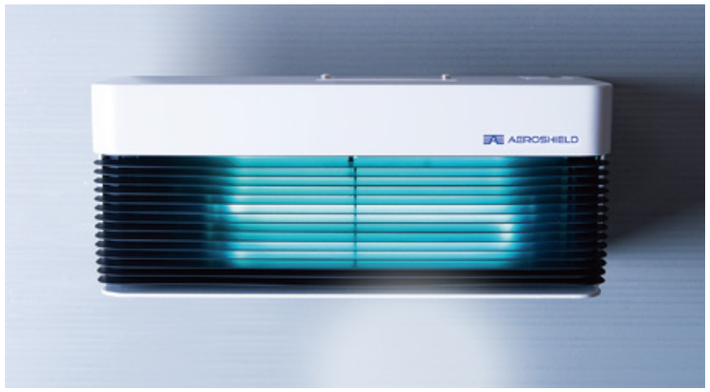
「社員のモチベーションが下がらないよう、各部署で毎週勉強会を開いており、様々なアイデアが提案されています。“巣ごもり消費”に向けた『おうちごはん』企画もそうですし、業種柄、普段は控えているオンラインショップで『期間限定・お得な九州お土産セット』販売企画も実施しました。コロナ禍で店頭販売が難しいため、賞味期限間近の菓子類をネットで格安販売したのですが、これが食品ロス防止にも繋がりました」

GoToキャンペーンが始まり、にわかに活気づく気配も感じつつありますが、自粛期間に全社員で取り組んだひとつひとつが、復調の鍵を握りそうです。

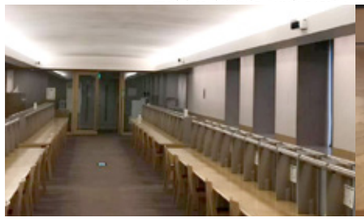
■ 宝物産株式会社
代表取締役会長　河越 武治氏
代表取締役社長　河越 祐人氏
営業部長　目代 安伸氏
住所　別府市東荘園3丁目4組
TEL　0977-23-0311
http://www.takarabussan.com

目代 安伸 営業部長

エアロシールド株式会社 【南大分支部会員企業】



空気環境対策強化に効果を発揮する紫外線照射装置「エアロシールド」



大分県立図書館の学習室にも導入されています

フクオカベンチャーマーケット大賞2020では特別賞を受賞

■ エアロシールド株式会社
代表取締役　木原 寿彦 氏
住所　大分市木上394-12
TEL　097-588-8120
https://www.aeroshield.co.jp/

木原 寿彦 代表取締役

空気環境改善を次代のインフラに

世界基準の紫外線照射殺菌装置の開発会社であるエネフォレスト株式会社が、2020年10月1日に社名を変更しました。新社名は、その製品名からエアロシールド株式会社と命名。さらなる販路拡大が期待されます。

エアロシールドは、空気中に浮遊する細菌やウイルスを紫外線によって減少させ、空気環境の改善につなげる装置。高さ2.1メートル以上の壁や天井付近に設置し、特殊なルーバー（仕切り板）が紫外線が下方に照射することを防ぎます。これにより室内上部のみで紫外線層を形成するため、人がいる環境でも人体の影響を心配せずに24時間稼働できます。エアロシールドを接触・飛沫感染対策と併せることで、より高い効果が発揮できるようになります。

同製品の開発の背景には、「大切な家族に対する思いがありました」と話す木原寿彦代表取締役 。「祖父が高齢者施設に入居した際、施設内の空気環境を改善したいと、私の父であり前代表の木原倫文が開発したのが本製品で以降、自社製品として医療施設を中心に販売を開始しました」

感染対策への意識が高い現在とは違い、当初は販売に苦戦していたそう。しかし単に性能を訴えるだけでなく、「身近にいる大切な人を守りたい」という思いを伝えることで、次第に共感の輪が広がりはじめました。

「コロナ禍で注目を浴びることになり、病院だけでなくJR東日本や東京ドーム等の事業継続が必要な空間や公共施設、民間企業、飲食店等からの問い合わせも多数届いています。コロナで空気に対する意識、ひいては公衆衛生への関心が高まったといえます。当社としては空気環境の改善そのものが、電気やガス等と同じように社会インフラになるよう努めていきたい」

そのために空気の“質”を評価する基準づくりに着手したという木原代表。同社が描く未来に向けて、既にあらたな一歩を踏み出しています。

株式会社 ABタウン 【高城支部会員企業】

（株式会社 ジェイテック グループ）

様々な施設が揃ったABタウンのイメージパース図。完成後は地域の景色を一変させそうです

着々と工事が進むA&Beeホテル

■ 株式会社 ABタウン
代表取締役　阿部 清治 氏
（株式会社ジェイテック 代表取締役）
住所　大分市三佐5-2-9-202
※完成後は大分市三佐5-2-23へ移転
TEL　097-547-7022
［株式会社ジェイテックのホームページ］
http://www.jtec-solution.net

工事中もストリートアートを展開

業績が好調の非破壊検査の機器

阿部 清治 代表取締役

ABタウンの中核施設A&Beeホテルはコロナ対策も万全

建造物を壊さずに内部の劣化状況を調べ、工場設備や橋梁等の補修や長寿命化を図る非破壊検査業界の一翼を担う株式会社ジェイテックが、大分市三佐に建設中の複合施設「ABタウン」の運営に乗り出します。

2021年新春に開業予定の同施設では、同社が新しく立ち上げた株式会社ABタウンが運営する「A&Beeホテル」を中核に、コーヒーショップ、ラーメン店、スイーツショップ、フットサルコート、託児所、青空美術館をオープン。同施設の向いには大手家具チェーンのニトリも進出予定で、従来のイメージとはガラリと変わったエリアに変貌しそうです。

「この場所は、当社取引先の進出企業へ出入りする検査技師や出張ビジネスマンが多いのですが、その割に利用できる宿泊施設が少ないため、その不便を解消できるよう自ら開業を決心しました。私が起業して居を構えた地でもあり、様々な機能を持たせて地域発展にも貢献できればと願っています」

阿部清治代表取締役の言葉から、その思い入れの深さが伝わってきます。一方で、この時期のホテル開業には、新型コロナウイルス感染の不安もつきまといます。

「これからのホテル経営には“安心”が求められますが、消毒や換気をするだけでは客室内の状況までわかりません。国内外の様々な設備を検討した結果、非破壊検査で取引のあるイスラエルの企業が開発したコロナウイルス不活性化装置を導入することに決めました。室内の温度や湿度、花粉、ウィルスなどの状況を測定し、吸着・不活性化ができる装置で、いわば“空気が見えるホテル”と言えます」

「A&Beeホテル」が提案する、新しいおもてなしスタイルに注目です。

有限会社 観光館 文福 【宇佐中央支部会員企業】

店内では新邪馬台国建国当時の写真が楽しめます

「おいしいごはんの素」シリーズを企画中

人気を呼んだ妖怪アマビエシール

女性にも人気のどじょう鍋（写真手前）とどじょうの天ぷら

高橋 宜宏 代表取締役

地域が持つエネルギーを見直す

1970年代から80年代にかけて、全国でまちおこしブームが巻き起こりました。とりわけ大分県は当時の平松守彦知事が一村一品運動を提唱し、湯布院や大山町をはじめ県内各地で大きな盛り上がりを見せました。

そのなかでも、ひときわユニークだったのが宇佐の「新邪馬台国建設公団」でした。1977年にミニ独立国「新邪馬台国」を建国し、邪馬台国論争大会やミステリー列車「卑弥呼号」を走らせるなど型破りな取り組みが注目を集め、1986年にはサントリー地域文化賞を受賞するに至りました。

しばらく活動を休止していた同国ですが、今年6月に妖怪アマビエシールの販売を皮切りに活動を再開。同国の“建設公団総裁”を名乗り、宇佐神宮参道の食事処として評判の有限会社観光館文福を営む高橋宜宏代表取締役は「コロナ禍による沈滞ムードを宇佐から打破したい」と、その意気込みを語ります。高橋代表のFacebookでは当時の生き生きした活動が綴られており、読み進むうちに心を奮い立たされます。

一方で高橋代表は、地域資源の活用に余念がありません。地元の名産品を使った自社製品「おいしいご飯のもと」シリーズを企画中で、たかなめし、ひじきめし、とりめしといったラインナップで宇佐の地域資源を売り出す予定です。

「店内メニューでは、宇佐市の特産品として脚光を浴びつつある、どじょう料理に力を入れています。どじょう鍋、どじょうの天ぷらが評判で、国産どじょうの生産量が日本一の宇佐の新名物として育てたい」と高橋代表。また、一連の商品は、ネットでも発信していく意向のようです。

「新邪馬台国」建国時代にはなかったインターネットというツールを、どんなアイデアで使いこなすのか、高橋代表の手腕が期待されます。

■ 有限会社 観光館 文福
代表取締役　高橋 宜宏 氏
住所　宇佐市南宇佐2224-1
TEL　0978-37-0125
https://happy.ap.teacup.com/bunpuku/
［高橋代表のFacebook］
https://www.facebook.com/yoshihiro0529

御菓子司 高橋水月堂 【北海部支部会員企業】

JR大分駅で実演販売をする高橋代表

大人気の『関あじ最中』『関さば最中』

高橋 幹雄 代表

今こそ既成概念に捉われぬ挑戦を

新型コロナ感染拡大を懸念して実施された緊急事態宣言中に、疫病除けに効果があるという妖怪・アマビエの伝説がネットを中心に広まりました。その可愛らしいアマビエの姿を模した生菓子で話題を集めたのが、1906年創業の老舗和菓子店として知られる高橋水月堂です。

「自粛が続くなか、手にとってなごやかな気持ちになってくれたらという思いで作りました。定番の商品ではないのですが、いまだにお客様からの注文が非常に多いです」

このように話すのは四代目当主にあたる高橋幹雄代表。自らが講師となってYouTubeで和菓子教室の動画も配信しており、大分に古くから伝わる「ひやき」等を紹介しています。

大分市佐賀関と大在に店舗を構える同店は、当地にちなんだ和菓子「関あじ最中」「関さば最中」の開発元であり、同商品はJR大分駅やトキハ百貨店等でお土産品として大人気です。このほかにも、かぼすを素材にした饅頭「豊後三百年の恋」、同じくカボスを使った甘露煮・ケーキ・最中の「かぼす三姉妹」、さらには「おんせん県まんじゅう」といったアイデア商品を開発。日本が誇る和菓子文化に新たなエッセンスを加えた商品開発力と、地域への愛情を込めた和菓子が店頭に並びます。

「土産品の売上が激減したコロナ禍にある今こそ、既存の商売の仕方を見直し、新たなチャレンジをしなければなりません」

坂本龍馬を敬愛する「豊後龍馬会」の会長も務める高橋代表は、「アントレプレナー（起業家）精神にあふれる坂本龍馬に倣いたい！」と、力を込めて話します。

持ち前の情熱と、和菓子職人として培ってきた腕の見せどころです。

丁寧に細工を凝らしたアマビエの生菓子（写真左）とYouTubeで和菓子作りの動画を流す高橋代表（写真上）

■ 御菓子司 高橋水月堂
代表　高橋 幹雄 氏
住所　本　店　大分市佐賀関3332-2
TEL.097-575-0161
大在店　大分市汐見2丁目117-2
TEL.097-592-1715
http://www.suigetsu-do.com/